

出船音頭（北海道）

ハアーエー エンヤ エッサ エッサ

出船の朝だよ（ソラエンヤコラ）

主の音頭で 船足揃えよ

若いおいらは（ホーイサ ホイサト）

波のり越えて そうだその意気ドントネー

ハアーエー エンヤ エッサ エッサ

朝日が昇るよ（ソラエンヤコラ）

踊る鷗は 出船の友だよ

海の俺等は（ホーイサ ホイサト）

荒波育ち そうだその意気ドントネー

ハアーエー エンヤ エッサ エッサ

朝霧ついてよ（ソラエンヤコラ）

船は櫓まかせ 櫓は主まかせよ

行くよ俺等は（ホーイサ ホイサト）

果てない海に そうだその意気ドントネー

「出船音頭」は昭和34(1959)年に田原賢声が作詞・作曲して、函館港を題材として作った北海道の新民謡です。昭和35年1月には、佐々木基晴が唄って評判になりました。

たいへん元気の良い曲なので、大会のオープニングや合唱曲としても好まれています。



外山節（岩手県）

外山街道に 笠松名所

名所越えれば 行在所

コラサノサンサ（コラサノサンサ）

わたしや外山の ひかげのわらび

たれも折らぬで ほだとなる

コラサノサンサ（コラサノサンサ）

南部外山 山中なれど

駒を買うなら 外山に

コラサノサンサ コラサノサンサ

明治24年に盛岡市玉山区外川に宮内省の御料(馬)牧場が発足し、多くの馬が育成され、外山節はその時の草刈り作業の唄でした。

昭和7年武田忠一郎は星川万多蔵と二人で外山へ出かけ作業員の唄を聞き、横笛をあわせてこれを採譜しました。昭和12年、忠一郎は民謡歌手大西玉子の協力を得て、この元唄を編曲し、キングレコードから発売、これが人気を呼んで岩手県を代表する民謡となりました。

